

The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

大半をアマーストの家の中で過ごしたエミリーの生涯は、外見的にはまことに波瀾に乏しいものでした。外の喧騒の世界をよそに、家の中に閉じこもっていたかのようにですが、「可能性」の中に心を飛躍させていました。彼女の詩は、けっして重苦しい思索に沈潜するのではなく、もちろん懐疑や苦悩をもらすこともしばしばありながらも、基本的には自己を明るく解き放つ力をもっていました。

'Exultation is the going'

Exultation is the going
Of an inland soul to sea,
Past the houses — past the headlands —
Into deep Eternity —

Bred as we, among the mountains,
Can the sailor understand
The divine intoxication
Of the first league out from land?

歓喜とは出て行くこと
内陸の魂が大海へと、
家々を過ぎ—岬を過ぎ—
永遠の中へと深く—

わたしたちのように、山に囲まれて育ったなら、
舟乗りにも分かるでしょうか、
陸地から一里沖へ出た時の
この世ならぬ恍惚が？

(岩波文庫「対訳 ディキンソン詩集」亀井俊介 編より)

Eternity には、永遠とか無限という意味がありますが、エミリーが詩作においてこの自由な精神を無限にはばたかせ、その精神を生涯貫いたからこそ、今でも人の心に響く作品が残されたのではないのでしょうか。

